

# 食品缶詰用金属容器に関する食品安全への取り組みについて

平成30年7月26日  
日本製缶協会

1

## 内容

- ・ 日本製缶協会の概要
- ・ 食品安全への取り組み  
食品缶詰用金属容器に関する衛生基準

2

# 協会の概要について

1. 設立 昭和33年食品缶詰用空缶を製造する会社が、  
輸出振興の為及び安心安全の担保の為に設立

2. 会員 正会員 製缶会社 7社  
賛助会員 鉄鋼鋼材メーカー 3社  
アルミ缶製缶会社 4社

## 3. 活動概要

イ) 各種連絡会を通じた行政・及び各種業界団体との円滑な連携  
同じく、業界共通の品質問題・衛生問題・環境問題への対応

ロ) 各社からの申告を元にした業界動向の把握・発信

ハ) 缶詰製品の普及・啓蒙活動

二) 業界に関連する法規への対応

例) 食品表示法改定に伴う表示関係  
食品衛生法対応  
容器リサイクル法対応

3

ホ) 包装容器に於ける3R活動の推進

スチール缶リサイクル協会による3R(主にリサイクル)の推進活動への協力  
当協会独自に、各社のリデュース活動の取り纏め報告

へ) 金属缶の標準化

食品缶詰用金属缶 JIS z 1571の制定及び定期的な見直し

ト) 衛生問題への対応

金属缶を製造するための自主基準としてポジティブリスト及び  
衛生試験法の制定第4版として平成24年度に改定

チ) 金属缶に係る技術資料の作成

日本缶詰びん詰レトルト食品協会との共著で、“缶詰用金属缶と  
二重巻締”を発行

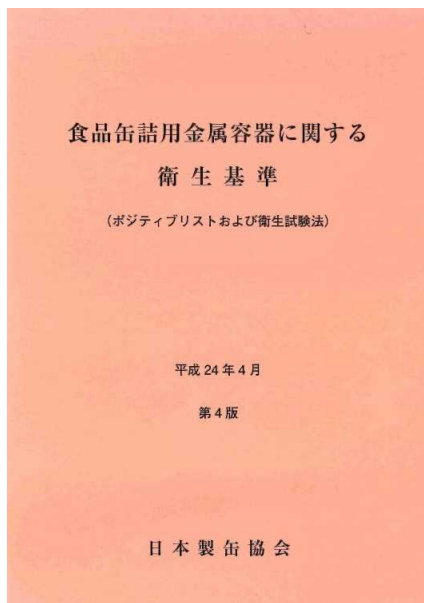


4

# 食品安全への取り組み

- ・食品缶詰用金属容器に関する衛生基準(第4版)2012年4月発行

※第1版は1978年に発行



5

## 衛生基準(ポジティブリスト)について

- ・コーティング材 使用目的・・・内容物の風味を維持、金属材料の腐食を防止。  
※塗料とも呼ばれ、金属缶内面に塗装される。

### コーティング材(塗料)の構成成分・・・衛生基準(ポジティブリスト)に記載

基樹脂	天然化石樹脂, ロジン樹脂, テルペン樹脂, セルロース及びセルロース誘導体, 油変性樹脂, フェノール樹脂, アミノ樹脂, ポリエステル, エポキシ樹脂, ポリアミド, オレフィン樹脂, ビニル樹脂, アクリル樹脂など
添加剤	硬化促進剤, 安定剤, 界面活性剤, 滑剤, 着色剤など

- ・密封材 使用目的・・・金属缶胴部と蓋部の接合部の密封性を確保。  
※コンパウンドとも呼ばれ、金属缶胴部と蓋部の接合部に使われる。

### 密封材(コンパウンド)の構成成分・・・衛生基準(ポジティブリスト)に記載

基ポリマー	天然ゴム, 合成ゴム
樹脂	天然樹脂, 天然変性樹脂, 合成樹脂
添加剤	充填剤, 着色剤, 安定剤, 改質剤, 粘度調整剤など

6

# 食品安全への取り組み

## 食品缶詰用金属容器に関する衛生基準について

- 趣旨: 食品缶詰用金属容器の製造に用いられる原材料を衛生上の見地から自主的に規制し、金属容器としての形態で衛生試験に合格することと定めている。
- 目的: 食品缶詰用金属容器材料の適正化を図り、食品缶詰の衛生的安定性を保持すること
- 範囲: 食品缶詰用金属容器
- 内容:
  - 容 器; 厚生省告示第370号、乳等省令に適合
  - 原材料; 厚生省告示第370号、乳等省令に適合 + 自主的な制限

7

## 原材料の自主的な制限の考え方

### • 金属材(スチール、アルミ、ハンダ)

⇒ 日本工業規格(JIS)を参照



### • コーティング材、密封材

⇒ 諸外国の食品容器包装の規格基準  
(主に米国の連邦規則集)を参照



8

# 食品衛生法に基づく溶出試験結果

## 告示第370号試験:適合証明書(例)

副 試験成績証明書

No. [ ] 号  
平成 [ ] 年 [ ] 月 [ ] 日

依頼者 [ ] 殿

一般財団法人 食品環境検査協会  
東京事務所  
〒136-0082 東京都江東区新木場2-10-3

品名 20YABNWPBNA

付記事項: 200g 溶接缶(仕用)

平成 27 年 8 月 20 日に本会に依頼された上記供試品についての試験結果は下記の通りです。

記

試験結果

試験項目	浸出条件	試験結果	試験方法
ヒ素	水 95℃ 30分間	適	食品、添加物等の規格基準第三器具及び容器包装Dの4による。(平成18年3月31日付厚生労働省告示第201号改正)
鉛	水 95℃ 30分間	適	
カドミウム	水 95℃ 30分間	適	
フェノール	水 95℃ 30分間	適	
ホルムアルデヒド	水 95℃ 30分間	適	
蒸発残留物	水 95℃ 30分間	適 (5 µg/ml 未満)	
エピクロルヒドリン	ペンタン 25℃ 1時間	適	
塩化ビニル	エタノール 5℃以下 24時間	適	

以下余白

## 乳等省令試験:適合証明書(例)

副 試験成績証明書

No. [ ] 号  
平成 [ ] 年 [ ] 月 [ ] 日

依頼者 [ ] 殿

一般財団法人 食品環境検査協会  
東京事務所  
〒136-0082 東京都江東区新木場2-10-3

品名 20YABNWPBNA

付記事項: 200g 溶接缶(仕用)

平成 27 年 8 月 20 日に本会に依頼された上記供試品についての試験結果は下記の通りです。

記

試験結果

試験項目	試験結果	検出限界	試験方法	脚注
《溶出試験》				
ヒ素	適	-----	※1	
重金属	適	-----	※1	
過オキシ酸の消費量	適 (0.4 µg/ml)	-----	※1	
フェノール	適	-----	※1	
ホルムアルデヒド	適	-----	※1	
4% 酢酸	適 (5 µg/ml 未満)	-----	※1	

試験方法  
※1: 乳及び乳製品の成分規格等に関する省令別表の四の(二)による。

以下余白